

3

父親のかかわりに対する希望

それでは前述のような父親のかかわりの現状について、母親はどのように思っているのだろうか。「あなたは父親に、育児にもっと参加してほしいと思いますか」「あなたは父親に、家事にもっと参加してほしいと思いますか」という質問に、「とてもそう思う」から「全然そう思わない」の4段階評定で母親に回答してもらった。その結果、以下のような結果が示された。

もっとかかわってほしい。特に育児に対して... (図3 - 7・8)

まず育児参加について見てみることにしよう。もっと育児にかかわってほしいと思うか、母親にたずねたところ、図3 - 7のような結果になった。まず全体では、77.8%の母親が「とても + まあそう思う」と答えており、父親のかかわりへの希望は非常に高いことが示された。さらに平均得点を境に、現在の育児参加度が高い群と低い群に分けて比較してみた。それによれば、現在の参加度が低い群では、37.5%の母親が「とてもそう思う」と答えており、父親にはもっと子どもとかかわってほしいという気持ち強いことが示されている。それに対して、育児参加度の高い群では「とてもそう思う」と答えた母親が22.4%、「あまり + 全然そう思わない」も25.0%いるなど、低い群に比べると父親に対する希望は

あまり高くなく、現状に対してやや満足度が高いことがうかがえる。

次に家事参加に対する希望では(図3 - 8)、全体の60%以上が「とてもそう思う」または「まあそう思う」と肯定的な回答をしている。また現在の参加度による比較では、現在の家事参加度が低い群の方が、母親はもっと父親に家事参加をしてほしいと思っている割合が若干多いが、育児参加の結果に比べると、その差はあまり大きくないことが示されている。

ここで育児参加に対する希望と家事参加に対する希望を比較してみると、全体に育児にもっと参加を望むという傾向が示されている。一方、図3 - 2および図3 - 3にもあったように、実際のかかわりにおいても父親は家事よりも育児の面でのかかわりが多くなっていた。現状に対する希望という意味では、よりかかわりの少ない家事に対して、強い希望が示されてもおかしくない。しかし、結果はそうではない。育児参加の方が、父親自身の現実のかかわりも多く、母親からの希望も強いということが示された。これは、家庭における父親の役割について、父母ともに、どちらかという子育ては父母双方で、家事は母親が...と考える傾向があるということを示しているのかもしれない。

図3 - 7 父親の育児参加への希望（全体）

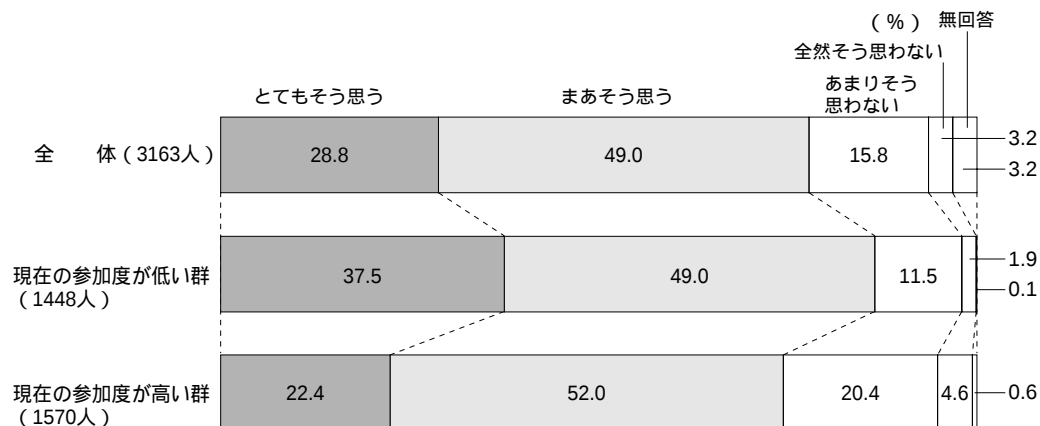


図3 - 8 父親の家事参加への希望（全体）

